

15. 業績評価委員会

羽野 卓三（委員長・和歌山県立医科大学）

医学部においては教育、研究、臨床が主な使命である。教育は根幹的な業務であり、教員の負担が大きいにもかかわらず、担当授業数や授業評価などしか評価されていない場合が多く、研究、臨床と比較して適切に評価されているとは言い難い。近年、臨床実習や少人数教育に重点が置かれ、教育手法も多様化した。教育の質向上には教員の更なる負担が求められている。また、共用試験や卒業時 OSCE、国家試験への対応、学生支援などの業務も増加しており、多様化した教育内容を適切に評価することが求められている。第16期の中島委員会においては量的評価、質的评价について十分議論されていたことから、第17期委員会では具体的に評価方法を確立した。評価項目は、学部教育、実習、大学院教育、臨床実習、初期・後期研修、入学試験、共用試験・臨床技能試験、教育企画、教育関連外部資金、教育管理、広報活動・高大連携、国際交流、学生支援、顕彰、

学生評価とし、現在の医学教育に関わるものをほぼ網羅した。評価方法はルーブリック形式とし、質および量を含む5段階評価とした。内容はすべての職域において評価できる内容とし、教育専門職のみが関わる内容は自由記載（アピールポイント）に記入することとした。また、評価は総合点として算出できるが、職位や職域によって総合点に変化するため、レーダーチャートを使用し、個人の教育業績の特徴を評価できるように工夫した。職位や職域を限定することで総括的に用いることができるが、年度ごとの評価の推移をみることで自己評価や目標形成にも使用できるように配慮した。評価表は学会のホームページに掲載した。

副委員長：中島宏昭，委員：相馬仁，奈良信雄，鈴木敬一郎，赤池雅史，小林直人，協力委員：大槻眞嗣，鈴木利哉

16. FD 委員会

高橋 弘明（委員長・岩手県立中央病院医療研修部）

日本医学教育学会 FD 委員会は、卒前・卒後教育指導者の能力開発・充実を中心的活動とし、毎年、全国 FD の現状の把握や医学教育を取り巻く諸問題や流れを確認し、毎年12月に開催する医学教育者のためのワークショップ（富士研 WS）の企画・運営を行っている。

富士研 WS は全国の大学や研修病院等の教育機関等で、指導的立場にある人材を対象に、FD を企画・運営する能力の向上を目的とするほか、

医学教育を取り巻く新しい流れを共有する役割の一端も担っている。その内容は、前半に教育に関わるニーズの抽出を行い、GIO や SBOs を立案し、方略・評価と学習計画を立案するプロセス重視型のカリキュラム・プランニング、後半には、毎年新しい課題を取り上げ、討議結果のプロダクトを医学教育誌に掲載している。

2009 年から第16期 FD 委員会が活動を開始し、その年の富士研 WS では卒前卒後医学教育